

平成30年度 全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果



I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生, 中学校3年生
- 3 実施教科 国語, 算数・数学, 理科
- 4 調査内容
 - ①教科に関する調査(国語, 算数・数学, 理科)
 - A: 「知識」など基礎学力に関する問題
 - B: 思考力など「活用」に関する問題
 - ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 平成30年4月17日(火)
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象

全国(国公立小学校)	19,733校	(実施率 99.2%…1,043,420人)
秋田県公立小学校	198校	(実施率 99.5%……7,255人)
全国(国公立中学校)	10,473校	(実施率 95.9%…1,008,090人)
秋田県公立中学校	116校	(実施率100.0%……7,368人)

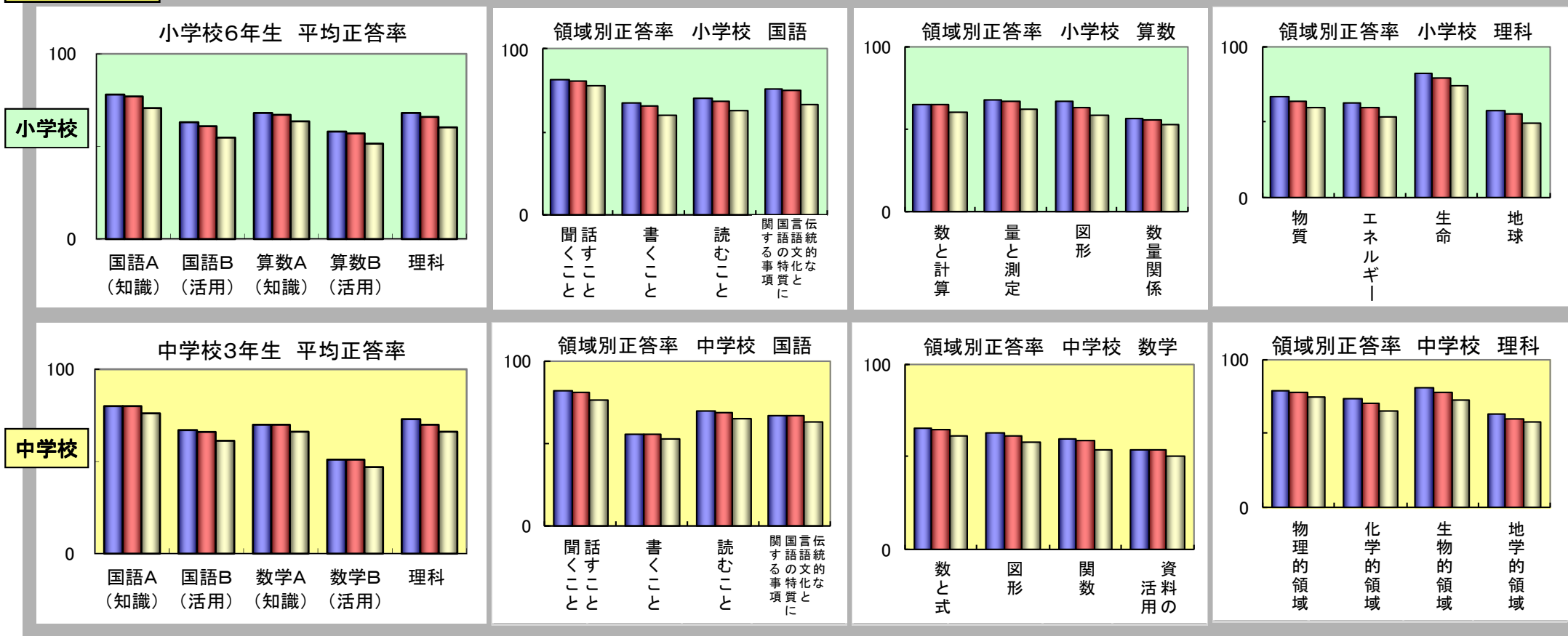
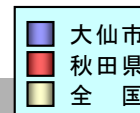
Ⅱ 教科に関する調査結果

1 概要

- 小学校では、全ての教科が全国及び本県の平均正答率を上回っており、良好な状況にある。中学校では、全ての教科が全国の平均正答率を上回るとともに、本県の平均正答率との比較においても上回るかほぼ同程度であることから良好な状況にある。
- 小・中学校共に活用に関わるB問題において、全国の正答率を上回っており、良好な状況にある。各学校における組織的な研究体制の下、小・中連携による9年間を見通した指導により、児童生徒の主体的な学習が進められ、思考力、判断力、表現力等が育成されてきた成果であると捉えている。

2 結果

【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

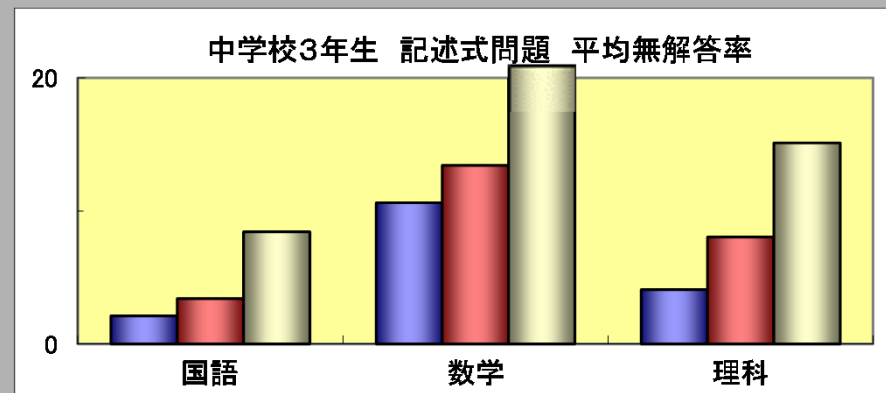
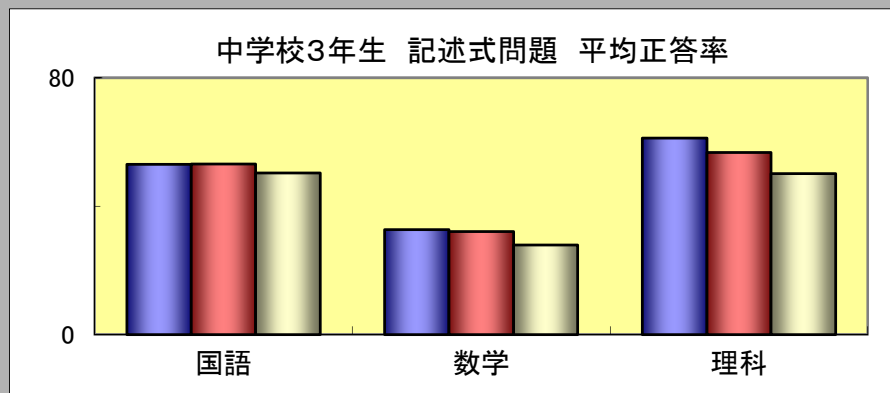
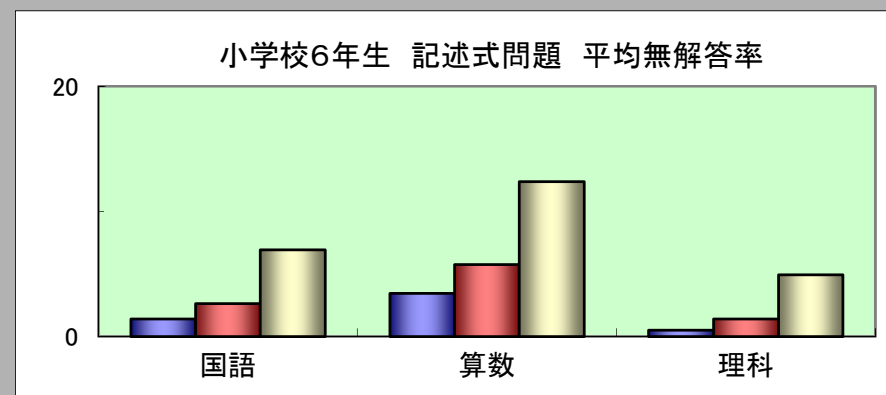
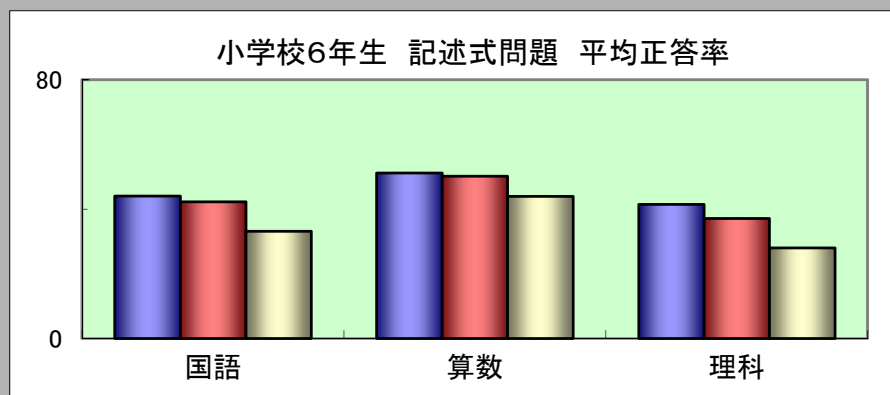
1 傾向

◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

○記述式問題について小学校では、国語、算数、理科において平均正答率が高く、全国や本県を上回っている。中学校では、国語と数学が県の平均正答率と同程度であり、理科においては全国や本県を上回っている。また、無回答率については、小学校・中学校共に、全国や本県よりも低く、概ね良好な状況が維持されている。

○正答数の分布から、正答数が少なかった児童生徒の割合が相対的に少ない状況は維持されている。（P. 22～23参照）

【資料2】 記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校



中学校

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 各学校では 基本的な学習習慣の確立と、失敗が受容される温かな人間関係づくりが進められている。
- 授業の中で、考えや意見を書いたり、発表したりするなどの機会と場を積極的に取り入れている。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- 復習を中心とした家庭学習の充実と継続が図られ、学校では基礎テストや放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- 学校の授業では、チームティーチングや少人数指導など、児童生徒の実態に応じた指導形態の工夫が効果的に行われている。

③ 児童生徒に活用する力を育成する授業改善が進められている。

- 考えを発表したり話し合ったりする活動を取り入れた児童生徒主体の対話的な授業や、目的に応じて文章を読んだり、根拠を基に説明したりする授業など、思考力、判断力、表現力等の育成につながる授業が積極的に進められている。

④ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 小学校における一部教科担任制の活用や小・中連携による9年間を見通した指導、幼保・小・中・高・大等との異校種間の連携・交流などにより、学習活動が充実し、学びの円滑な接続が図られている。
- 教育専門監の活用による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

⑤ 各学校の取組を支援する国・県・市の施策を積極的に活用し、推進している。

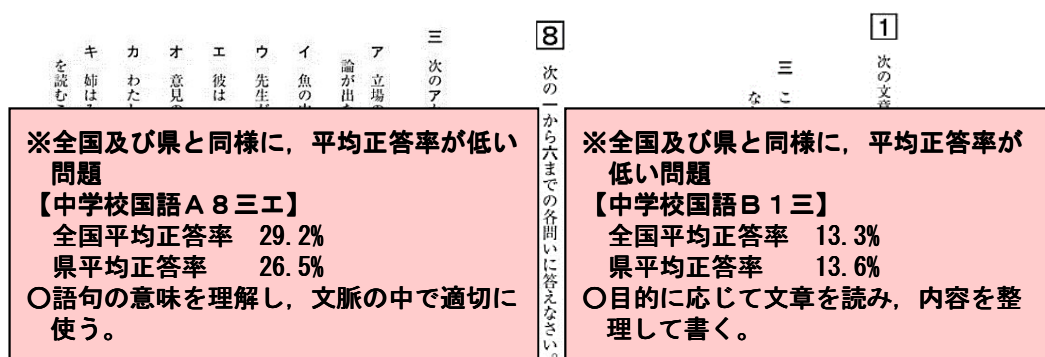
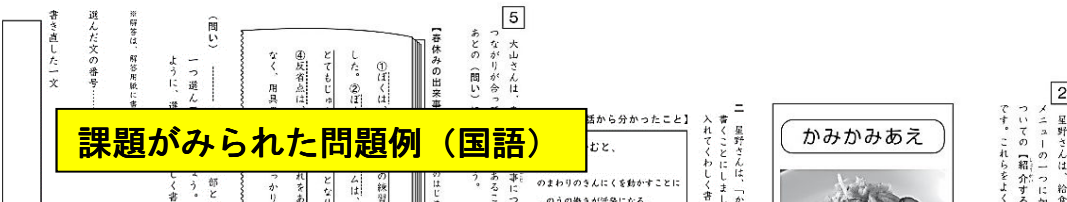
- 文部科学省・国立教育政策研究所等の研究指定校事業や県の少人数学習推進事業、教育専門監制度、学力向上推進班の単元評価問題など、国や県の施策を本市の学校は積極的に活用している。
- 学校支援活動などを中心に、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- 各校のPTA及び市PTA連合会等を通じて、学力向上・基本的生活習慣の確立に向けた取組について保護者の理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
 - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中（小）学生サミット」（あいさつ運動、環境問題、被災地支援・交流、いじめ撲滅、SNルールづくり等）の実施、体験的学習の時間支援事業の実施、学校生活支援員、日本語指導支援員等の配置
 - ・H29年度：学力向上推進委員会による学習状況調査結果分析、改善の視点提示、フォローアップシート作成
 - ・H30年度：学力向上推進委員会による小学校外国語活動指導案例（3年生～6年生）の作成
 - ・市教職員研究集会、職務別等研修会の開催
 - ・学校訪問の実施（教育委員会訪問、指導主事訪問 など）
 - ・秋田大学、国際教養大学、県立高等学校等との交流・連携
 - ・大仙教育メソッドに基づく各種連携の推進 ・「大仙ふるさと博士育成」事業、大仙グローバルジュニア育成事業の実施

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

①「知識」に関するA問題については、全国や県の結果に比べて概ね良好であるが、中学校国語の「言語についての知識・理解・技能」、小学校算数「数と計算」、中学校理科「生物的領域」において、全国及び県の平均正答率を下回る問題があり、基礎的・基本的な内容の習得を図る必要がある。

②「活用」に関するB問題については、全国や県の結果に比べて概ね良好であるが、中学校数学「資料の活用」において、全国及び県の平均正答率を下回る問題があり、基礎的・基本的な知識・技能の活用を目的とした一層の授業改善が求められる。



課題がみられた問題例 (国語)

＝国語の課題と改善に向けて(小学校)＝
※県の平均正答率を下回った問題

■H30年度の調査結果に基づく主な課題

- ・主語と述語との関係を適切に捉え、文を正しく書くことに課題が見られる。
- ・適切な内容を資料から取り上げ、他の資料と関連付けて書くことに課題が見られる。

□指導改善の主なポイント

- ・主語と述語の関係については、書くことの学習と関連させる。例えば、主語と述語、修飾と被修飾との関係をはっきりさせながら推敲する学習を設定し、より読みやすく、より伝わりやすくなったと実感できるように指導する。
- ・それぞれの情報からキーワードを見つけて困んだり、線でつないだりしながら、相手に伝わるように、文章全体の構成や表現の工夫について考えられるようにする。

※県の平均正答率を下回った問題

【小学校国語A 5】

県平均正答率 49.7%

- 文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く。

※県の平均正答率を下回った問題

【小学校国語B 2二】

県平均正答率 19.1%

- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。

※全国及び県と同様に、平均正答率が低い問題

【中学校国語A 8三エ】

全国平均正答率 29.2%

県平均正答率 26.5%

- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。

※全国及び県と同様に、平均正答率が低い問題

【中学校国語B 1三】

全国平均正答率 13.3%

県平均正答率 13.6%

- 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。

＝国語の課題と改善に向けて(中学校)＝

■H30年度の調査結果に基づく主な課題

- ・慣用句の意味を理解することについて課題がある。
- ・「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く問題で、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・慣用句等の指導においては、語句の意味を辞書などを用いて確認するだけでなく、具体的な使用例を考える学習活動を設定し、話や文章の中で実際に使用するよう指導する。
- ・内容を整理して書くことができるようになるためには、例えば、文章の構成や展開の工夫とその効果について、互いの考えを述べ合う学習活動を通して、その後の自分の文章表現に実際に役立てていくようにする。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

※県の平均正答率を下回った問題

【小学校算数A 7 (1)】

全国平均正答率 41.6%

県平均正答率 42.7%

○円周率の意味について理解している。

※県の平均正答率を下回った問題

【小学校算数B 3 (1)】

全国平均正答率 20.7%

県平均正答率 25.5%

○メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる。

7

次の問題に答えましょう。

(1) 円周率を求める式を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 円周の長さ × 半径の長さ
- 2 円周の長さ × 直径の長さ
- 3 円周の長さ ÷ 直径の長さ
- 4 直径の長さ ÷ 円周の長さ

(2) 下の文の [] にあてはまるものを考えます。

円があります。この円の直径の長さを 2 倍にします。このとき、直径の長さを 2 倍にした円の円周の長さは、もとの円の円周の長さの [] 倍になります。

上の文の [] にあてはまるものを、下の ア から エ までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 2

=算数の課題と改善に向けて(小学校)=

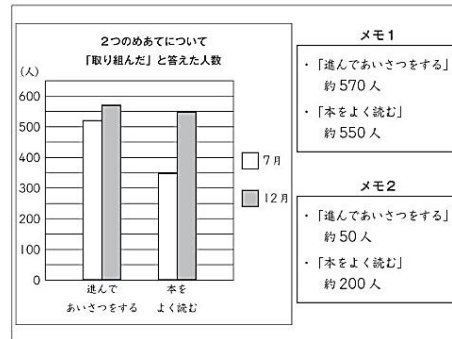
※県の平均正答率を下回った問題

■H30年度の調査結果に基づく主な課題

- ・円周率の意味の理解に課題がある。
- ・情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目して解釈し、読み取った内容を記述することに課題がある。
- ・記述式問題のうち、数学的な表現を用いた理由の説明に課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・身の回りにある円の形をしたものについて、円周の長さや直径の長さを測定し、円周の直径に対する割合を調べる学習活動の充実。
- ・他者が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈する学習活動の充実。
- ・根拠を明確にし、筋道を立て、数学的な表現を用いて説明する学習活動の充実。

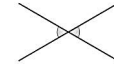


えりかさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。

メモ1を見ると「進んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが人数が

課題がみられた問題例 (算数・数学)

⑧ ある学級で、「対頂角は等しい」ことの証明について、次の①、②を比べて考えています。



① 下の図のように、対頂角 $\angle a$ と $\angle b$ について、

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

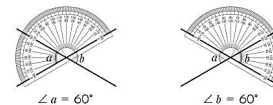
【中学校数学A 8】

全国平均正答率 45.5%

県平均正答率 43.2%

○証明の必要性と意味を理解している。

② 下の図のように、対頂角 $\angle a$ と $\angle b$ について、 $\angle a$ と $\angle b$ の大きさをそれぞれ測ると、



⑤ 里奈さんは、バスツアーを利用して旅行することになりました。そこで、S社とT社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

	S社	T社
団体料金	3200円	2880円
個人料金	1000円	1000円

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【中学校数学B 5 (1)】

全国平均正答率 16.0%

県平均正答率 16.3%

○与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる。

(2) 里奈さんは、T社の辺野遊りプランの場合、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求めました。

里奈さんの計算1
 団体料金は、通常料金3200円の10%引きだから、
 $3200 - 3200 \times 0.1 = 3200 - 320 = 2880$
 団体料金2880円の10人分は、
 $2880 \times 10 = 28800$
 通常料金3200円の何人分にあたるかを求めるから、

=数学の課題と改善に向けて(中学校)=

■H30年度の調査結果に基づく主な課題

- ・証明の必要性と意味を理解せずに答えている割合が高い。
- ・与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理することに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・具体的な数で確かめるだけでなく、演繹的な推論による証明が必要であることを確認する学習活動の充実。
- ・実生活の場面を想定し、事象を目的に応じて数値化して判断するなどの学習活動の充実。

ウ ①は証明できていないが、②は証明できている。

中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの理由を説明しなさい。

エ ①も②も証明できていない。

ア 通常料金が変われば、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わる。

イ 通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

※全国及び県と同様に、平均正答率の低い問題

【小学校理科 2 (3)】
 全国平均正答率 20.1%
 県平均正答率 25.1%

○より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる。



※全国及び県と同様に、平均正答率の低い問題

【小学校理科 4 (3)】
 全国平均正答率 42.7%
 県平均正答率 41.1%

○物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる。

ゆかりさん：これでろ過できるね。

まもるさん：これは正しくろ過できていないよ。ビーカーにたまった海水には、砂が混じっているよ。

ゆかりさんたちは、魚を水そうで飼育しようとしたところ、水そうに入れる海水が足りないで、海水と同じ量の食塩水をつくることにしました。

まもるさん：調べてみたら、海水 400 mL には 12g の食塩がとけているそうだよ。

ゆかりさんは、400 mL の水を用意して、12g の食塩をどかすことにしました。

まもるさん：あれ？ 400 mL の水に食塩を 12g とかしたら、できた食塩水は 400 mL より多くなるのではないかな？

水の量を変えた実験

○地面のけずれ方についてくわしく調べるために、みその曲がっているところの外側と内側に 3 本ずつ棒を立てる。

○1本のペットボトルの水を流したときと、2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようすを調べる。

実験結果

1本のペットボトルの水を流したとき	2本のペットボトルの水を流したとき
-------------------	-------------------

＝理科の課題と改善に向けて(小学校)＝

■H30年度の調査結果に基づく主な課題

- ・実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題がある。
- ・物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことについての理解に課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・観察や実験の結果を基に考える活動において、「事実」と「解釈」の両方を示しながら説明する学習活動の充実。
- ・水溶液の重さや体積をはかり、定量的に考え、物が水に溶ける様子を絵や図等を用いて表現する学習活動の充実。

4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 400gになる。
- 2 408gになる。
- 3 412gになる。
- 4 420gになる。

課題がみられた問題例(理科)

8 秋葉さんは、コンピュータを使って、台風の情報を集めたり、進路のシミュレーションをしたりして、科学的に探究しました。(1)から(3)までの各問に答えなさい。

集めた台風の情報

※県の平均正答率を下回った問題

【中学校理科 3 (1)】
 全国平均正答率 37.5%
 県平均正答率 40.1%

○風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる。

図1 台風の進路の予想図
 「×」は、現在の台風的位置
 「○」は、予想される台風的位置
 「★」印は、秋葉さんの家の位置

図2 現在の台風周辺の風向

※全国及び県と同様に、平均正答率の低い問題

【中学校理科 9 (2)】
 全国平均正答率 19.4%
 県平均正答率 17.4%

○植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる。

9 健一さんは、乾燥した部屋に鉢植えの植物を置くことで湿度が上がって、インフルエンザの予防に効果があると知り、科学的に探究して実験ノートにまとめました。(1)と(2)の各問に答えなさい。

＝理科の課題と改善に向けて(中学校)＝

■H30年度の調査結果に基づく主な課題

- ・台風的位置と風向を示した図とを適切に関連付けて、観測地点における風向を予想することに課題がある。
- ・蒸発と湿度に関する知識を活用して、蒸散以外に湿度を変化させたと考えられる要因を見いだすことに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・広域の気象情報と観測者が捉える気象現象とを関連付け、空間と方位(視点の移動)、時間の観点から気象現象を考えたり説明したりする学習活動の充実。
- ・観察や実験において、①「変化すること」と「原因として考えられる要因」を全て挙げる→②それらの要因を「変える条件」と「変えない条件」に整理し、観察・実験を計画するなどの学習活動の充実。

(1) 下線部の植物の働きを何といいますか。下のアからエまでの中から1つ選びなさい。
 ア 光合成 イ 呼吸 ウ 気孔 エ 蒸散

(2) 健一さんは【新たな疑問】をもち、下線部以外の原因を考えました。考えられる原因を1つ書きなさい。

IV 学習環境に関する調査の結果

1 概要

- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や本県の平均を上回っており、児童生徒は概ね望ましい生活環境の中で、基本的な生活習慣及び学習習慣を確立し、意欲的に学習に取り組んでいる。
- 児童生徒主体の授業や、達成感・自己有用感をもたせる機会と場の充実を図ることで学ぶ意欲が育まれ、地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して豊かな心が育まれている成果であると捉えている。

2 結果

(1) 学習状況



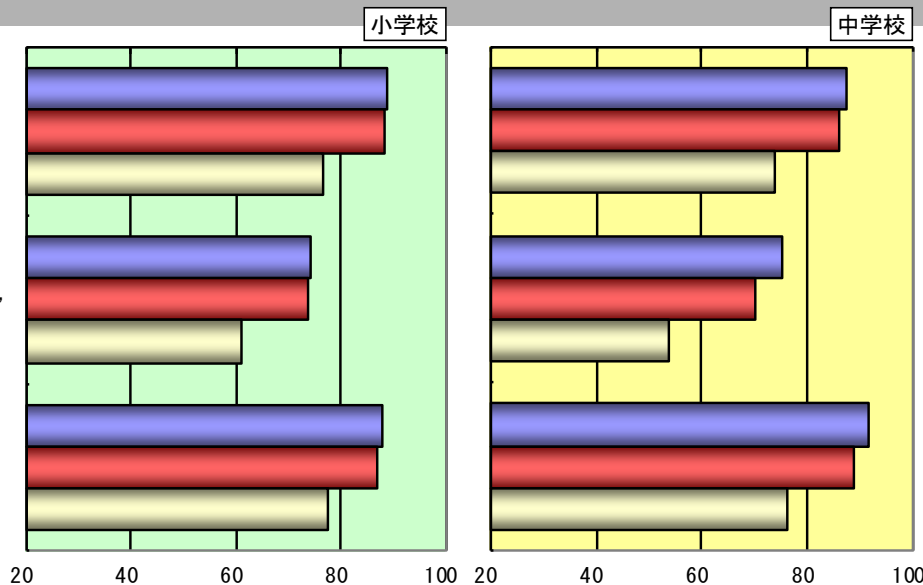
【資料3】「主体的な学び、対話的な学び、深い学び」の経験

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う

前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う

友達（児童生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う



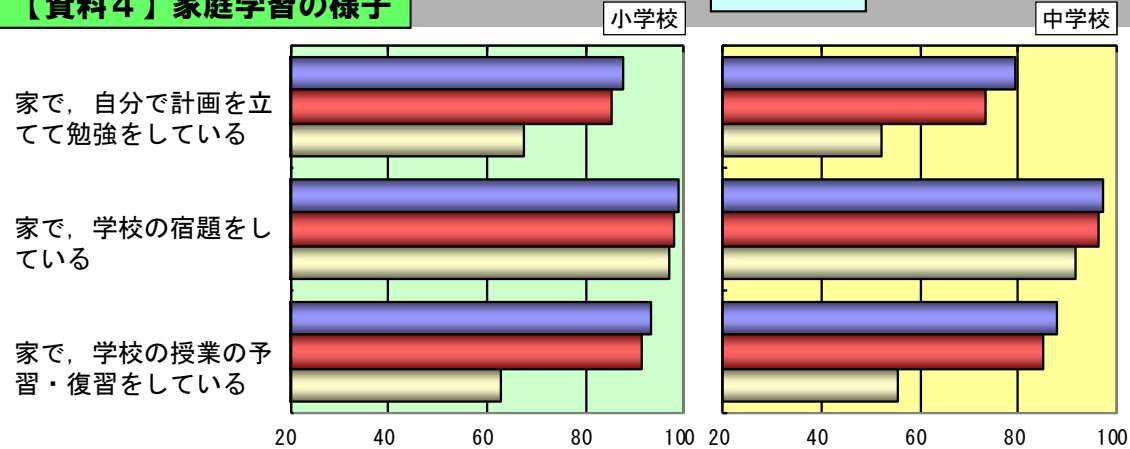
前年度までの授業について

- 課題解決に向けて、主体的に学ぶことに取り組んでいたと回答している児童生徒が、全国や本県を上回っている。
- 考えを発表するときには、相手意識をもって、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答している児童生徒が、全国や本県を上回っている。
- 「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりできている」についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、学習活動の質が高まってきている。

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(2) 学習習慣

【資料4】家庭学習の様子

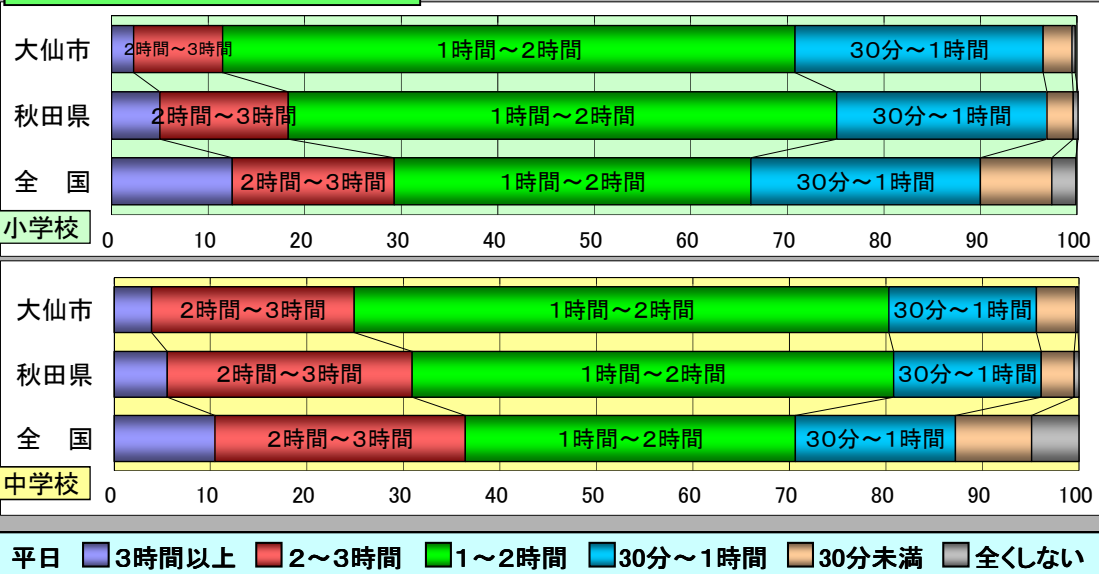


○小・中学生共に、自分で計画を立てて勉強したり、宿題や授業の予習・復習によく取り組んだりしており、自ら学ぶ姿勢が身に付いている。

○平日の学習時間が「1～2時間未満」の割合が、小・中学生共に全国や本県より多く、「全く学習をしない」に「学習時間が30分未満」を加えた割合は全国より少ない。

ただし、「2時間以上」は、小・中学生共に全国や本県より少なく、毎日短時間で継続的に学習している様子が分かる。

【資料5】平日の学習時間



【資料6】平均学習時間〔単位：分〕

小学校	平日
大仙市	110
秋田県	120
全国	120

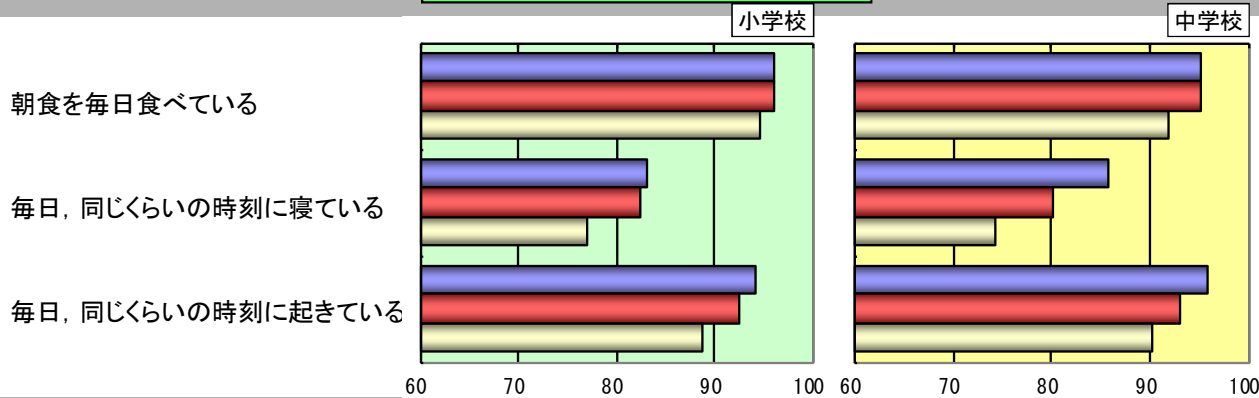
中学校	平日
大仙市	120
秋田県	130
全国	130

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (3) 生活習慣

【資料7】基本的な生活習慣等

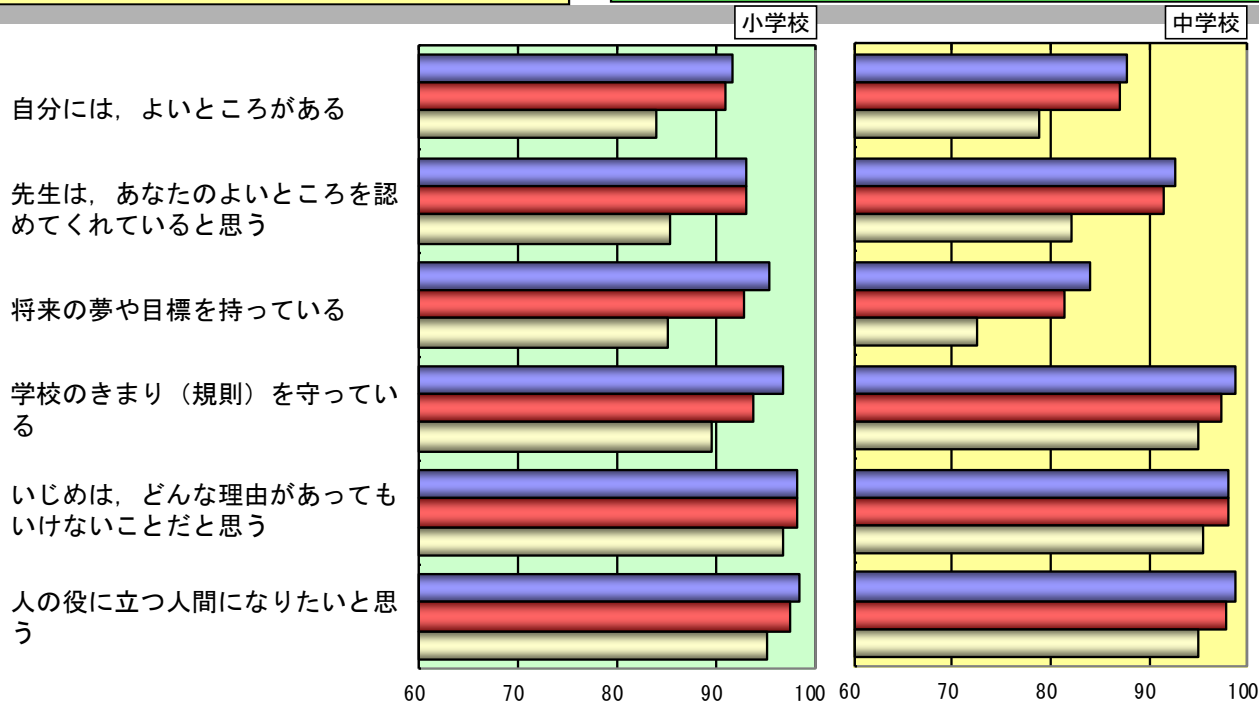
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より



○早寝、早起き、朝ごはんによって代表される生活習慣に関わる項目で、国や県の平均を上回る良好な状況にあり、家庭での子どもへの意識付けや教育がなされ、また、学校との連携が図られていることがうかがえる。

2 - (4) 自己肯定感、規範意識等

【資料8】自己肯定感、自己有用感、将来への目標、規範意識等



○自己肯定感や自己有用感、夢や目標をもつことに関する項目で、小・中学校共に良好な状況にある。互いを認め合う学習環境の中で、児童生徒が目標をもって学んでいることの成果と捉えられる。
○学校のきまりをきちんと守り、いじめは許さないなど、規範意識が高い児童生徒の割合が多い。また、人の気持ちが分かり、役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。

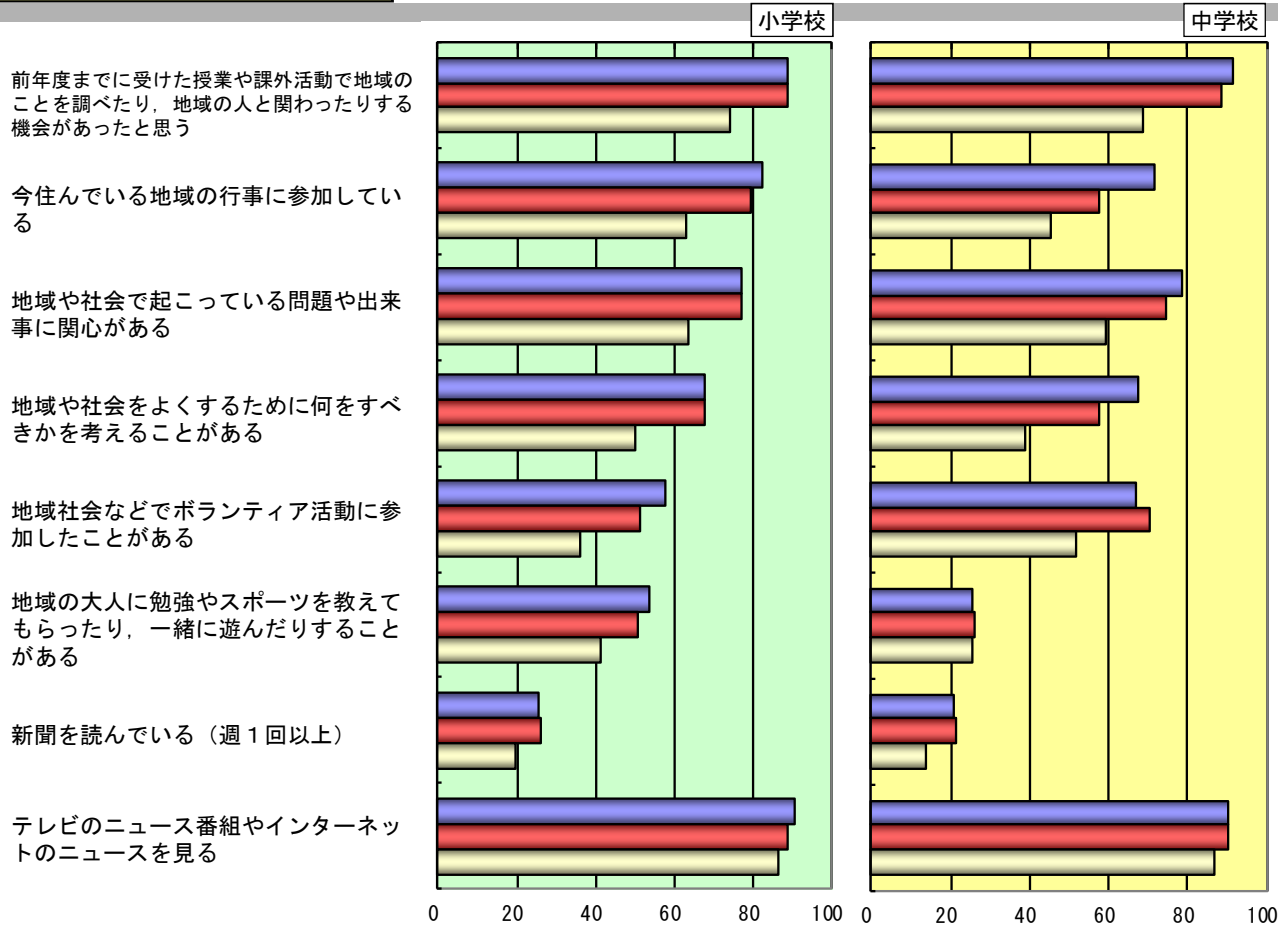
■ 大仙市
■ 秋田県
■ 全国

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (5) 地域への関心

【資料9】地域や社会に関わる活動の状況等

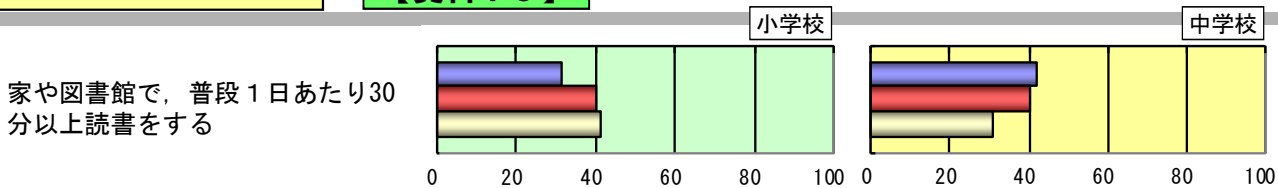
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県全国の比較】
児童生徒質問紙調査結果より



- 小・中学生共に「地域行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答している割合が国や県よりも高い。
- ボランティア活動への参加については、小学生では県平均を上回るが、中学生では県平均をやや下回っている。
- 中(小)学生サミットを通してエコ活動や被災地交流活動等をさらに進めていくとともに、地域行事の担い手としての活動を通して、地域活性化に寄与できる児童生徒の育成を進めていきたい。
- 協力的で温かい地域の教育力の一層の充実を期して、引き続き地域との連携による特色ある教育活動の推進と市PTA連合会と一体となった取組を重視していきたい。

2 - (6) 読書習慣

【資料10】



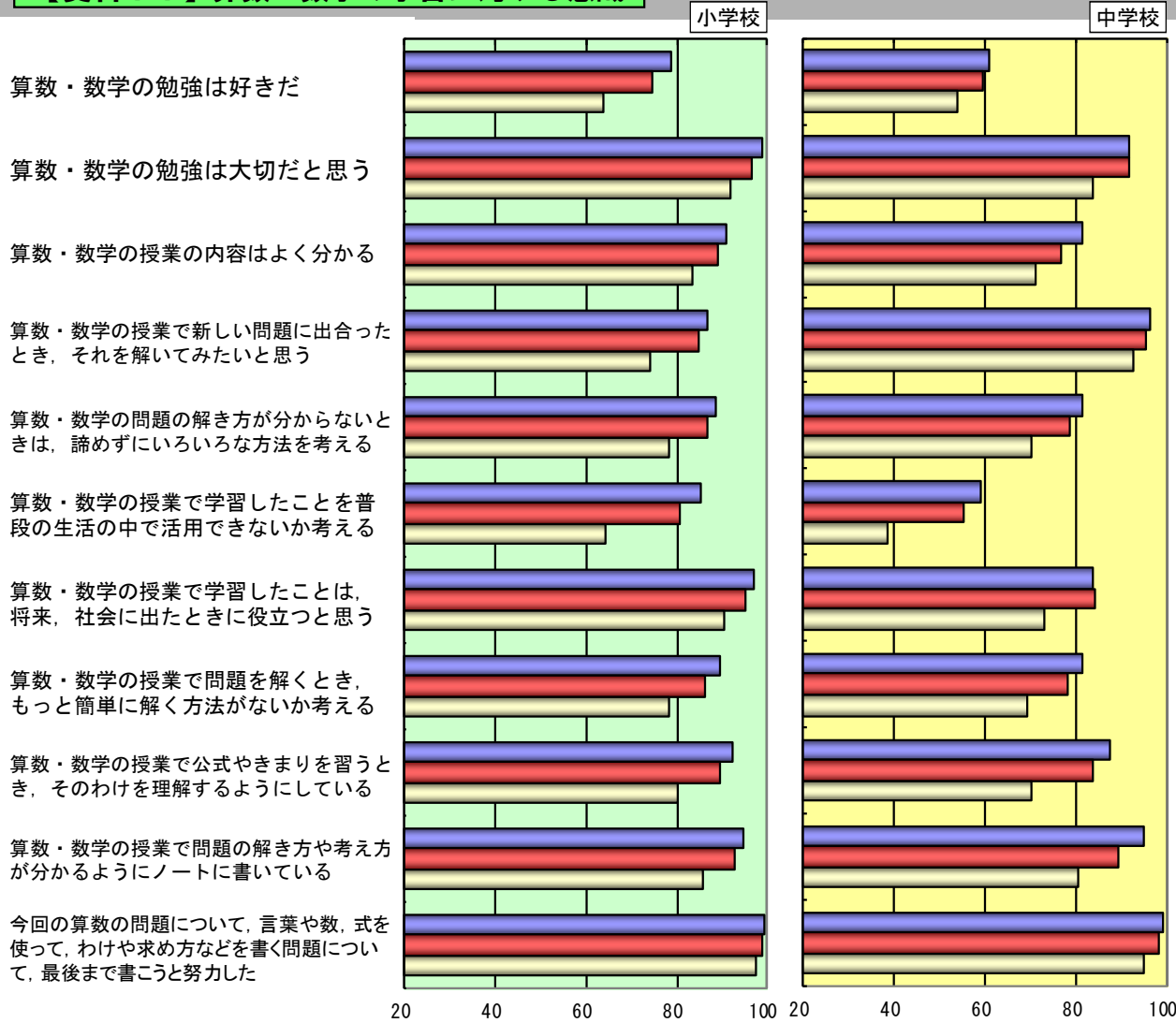
- 家や図書館での読書時間については、中学生では国や県の平均を上回るが、小学生では下回っている。励行のための工夫をしていきたい。

IV 学習環境に関する調査の結果

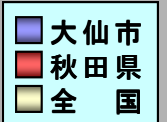
2 - (7) 理数教科の学習に対する意識

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料11】算数・数学の学習に対する意識



- 算数・数学に関するほぼ全ての質問項目において、国や県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・「新しい問題に出合ったとき、解いてみたいと思う」
 - ・「もっと簡単に解く方法がないか考える」
 - ・「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」
 - ・「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」
 - ・「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、最後まで書こうとした」
- 主体的な取組(意欲)、自分なりの思考や判断等、ノートのまとめ方、粘り強く取り組むこと等を意識している児童生徒が多いことがうかがえる。
- (国や県と比べると高いが、)「算数・数学が好き」、「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」の項目が、他の項目と比べ低くなっており、更なる工夫改善を図っていきたい。



IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料12】理科の学習に対する意識

小学校

中学校

理科の勉強は好きだ

理科の勉強は大切だと思う

理科の授業の内容はよく分かる

自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある

理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う

将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う

理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている

理科の授業では、理科室で観察や実験を週に1回以上行った

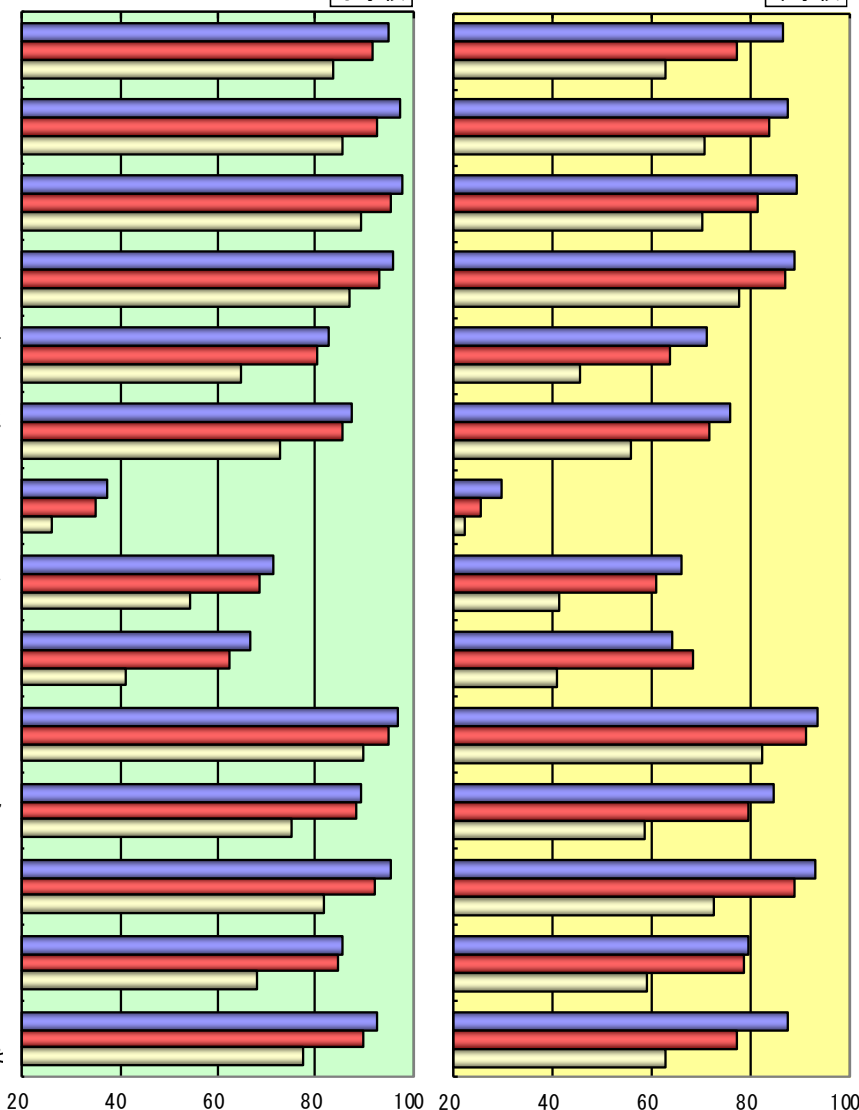
観察や実験を行うことは好きだ

理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている

理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている

理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考える

今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題について、最後まで書こうと努力した



- 理科に関するほぼ全ての質問項目において、国や県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・「観察や実験を行うことは好きだ」
 - ・「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」
 - ・「観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている」
 - ・「解答を文章などで書く問題について、最後まで書こうと努力した」
- 観察や実験を行うことが好きな児童生徒が多い。観察や実験を通して、計画したり考察したり、振り返って学びを深めたりする学習が行われていることがうかがえる。
- 観察や実験の頻度は、月1回以上は概ね行われているが、週1回以上で見ると、中学校では県の平均を下回っている。
- (国や県と比べると高いが、)「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい」、
「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」の項目が、他の項目と比べ低くなっている。授業の工夫改善と共に、キャリア教育での意識付けを図っていきたい。



V 学習環境と学力調査との相関

1 概要 ○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と5科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

【自己有用感・規範意識等】〈相関がみられた主な項目〉

- 先生は、よいところを認め褒めてくれている。
- ◎学校のきまり（規則）を守っている。

【学習習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 家で、自分で計画を立てて勉強している。
- ◎家で、学校の宿題をしている。
- ◎家で、学校の授業の予習・復習をしている。

【生活習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎朝食を毎日食べている。
- ◎毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きている。

【家族や地域への関心】〈相関がみられた主な項目〉

- 家の人と学校での出来事について話をする。
- ◎地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。

【授業への取組】〈相関がみられた主な項目〉

『算数・数学』

- 算数・数学の勉強は好きだ。 ◎算数・数学の授業の内容がよく分かる。
- ◎算数で新しい問題に出合ったとき、解いてみたいと思う。（数学ができるようになりたい。）
- ◎算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
- 算数・数学で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
- ◎算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしている。
- ◎算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
- ◎言葉や数、式を使って説明する問題を、最後まで解答を書こうと努力した。

『理科』

- 理科の勉強は好きだ。 ◎理科の授業の内容がよく分かる。
- 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- ◎理科の授業で、自分の考え（や考察）をまわりの人に説明したり発表したりしている。
- 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- ◎理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。
- 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。

『前年度までに受けた授業』について

- ◎課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。
- ◎学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

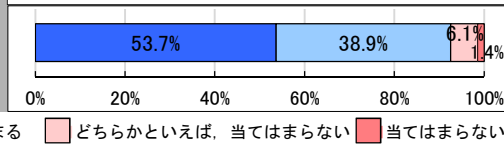
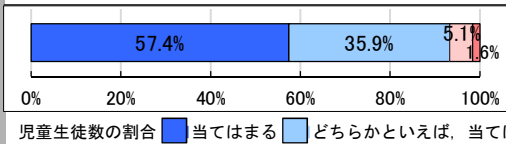
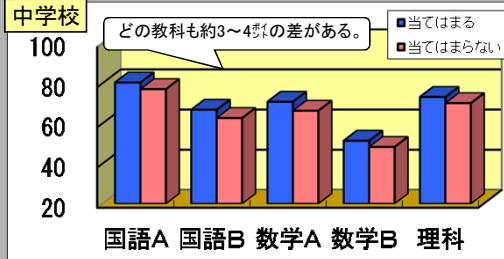
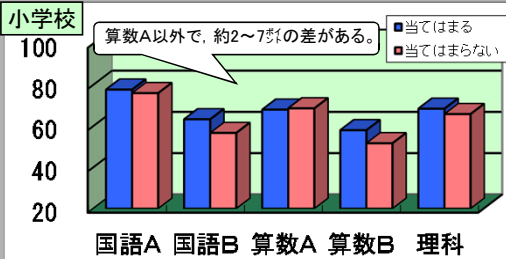
2 相関

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

【自己有用感・規範意識等】

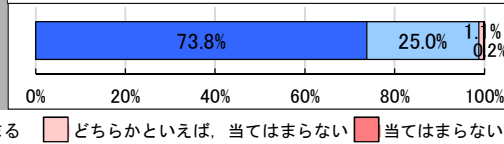
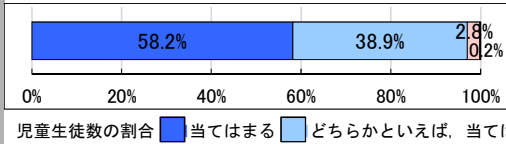
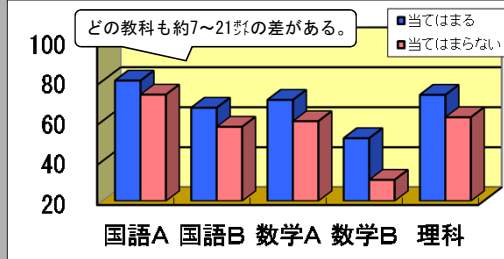
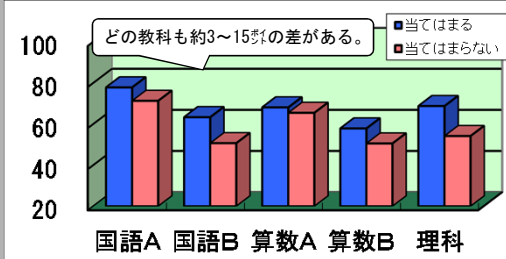
【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか】

〈質問番号(2)〉



【学校のきまり(規則)を守っていますか】

〈質問番号(3)〉

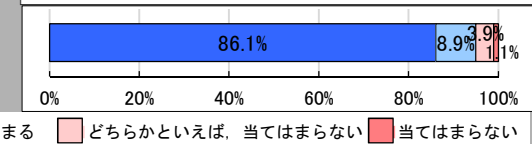
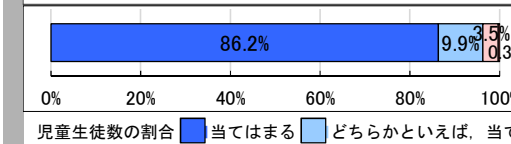
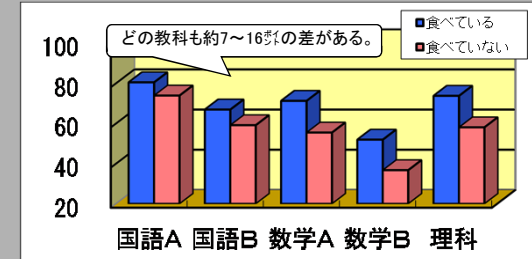
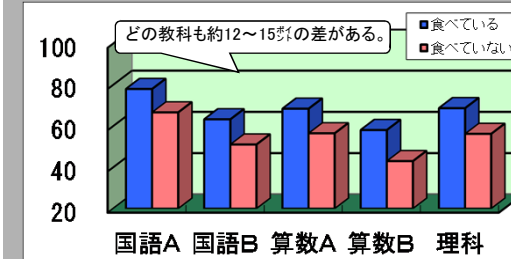


【生活習慣等】

【朝食を毎日食べていますか】

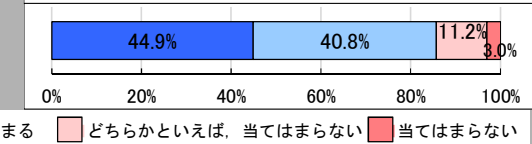
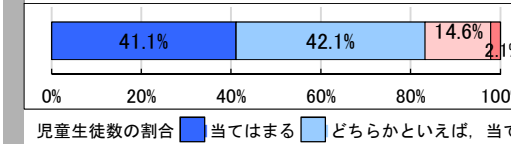
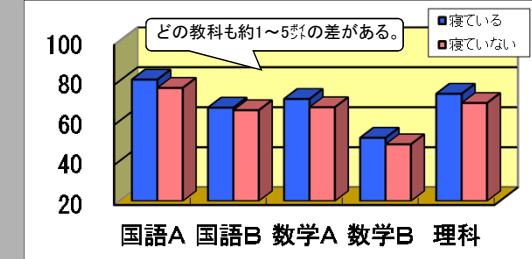
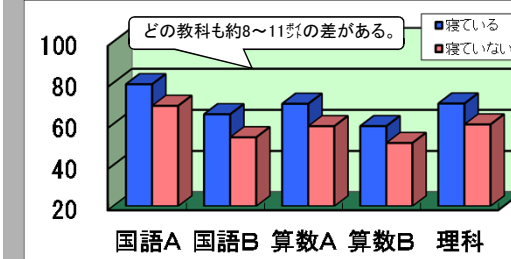
【資料13】

〈質問番号(7)〉



【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】

〈質問番号(8)〉



○「先生は、自分のよいところを認めてくれる」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、ほぼ全ての教科においても平均正答率が高い。
「きまり(規則)を守っている」に良好な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、中学生の相関が顕著である。

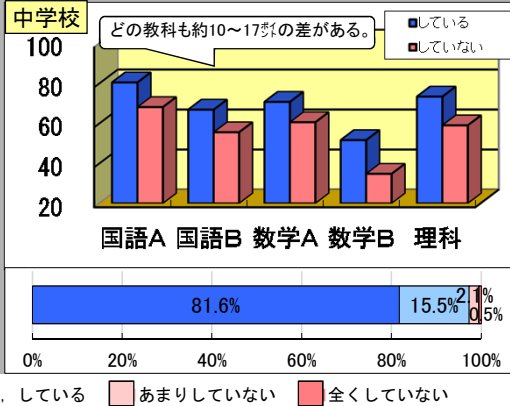
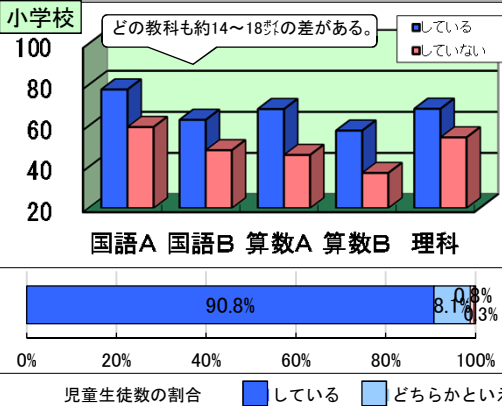
○「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、朝食の回答に対しては、小・中学生共に相関が顕著である。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

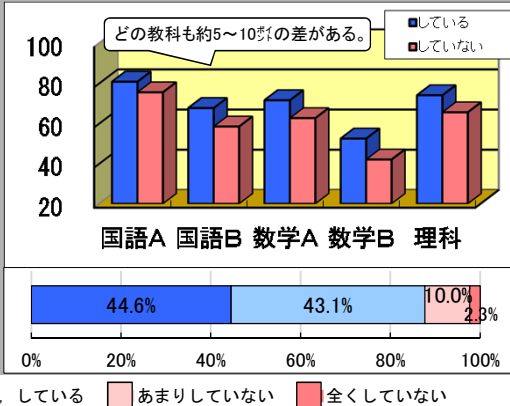
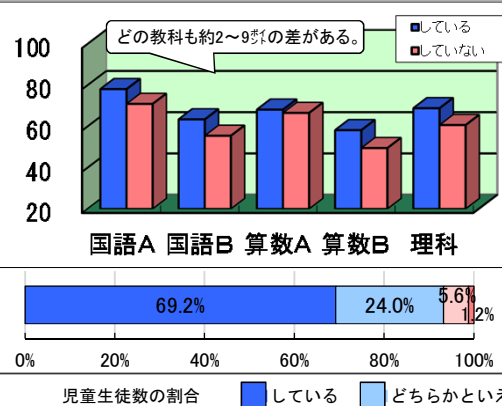
【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【学習習慣等】

【家で、学校の宿題をしていますか】



【家で、学校の授業の予習・復習をしていますか】

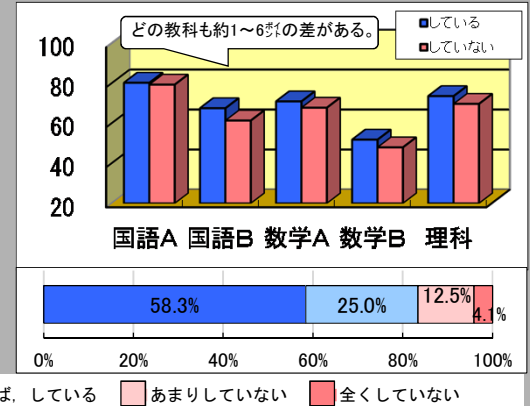
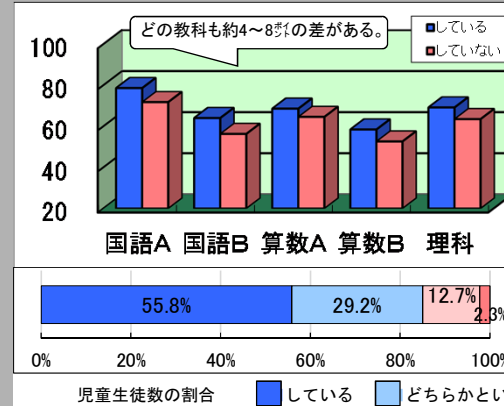


○「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の予習・復習をしている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

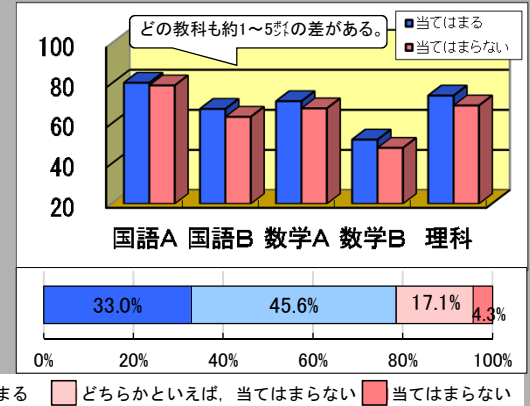
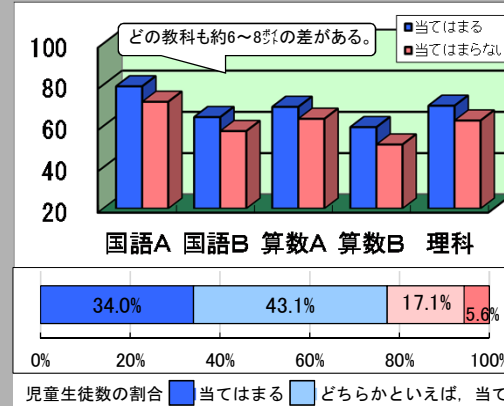
【家族や地域社会への関心】

【資料14】

【家の人と学校での出来事について話をしますか】



【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか】



○「家族と学校の出来事の話をする」「地域や社会の出来事に関心がある」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

【調査問題への取組】

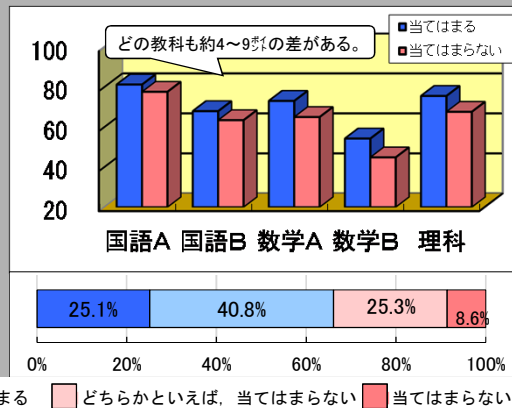
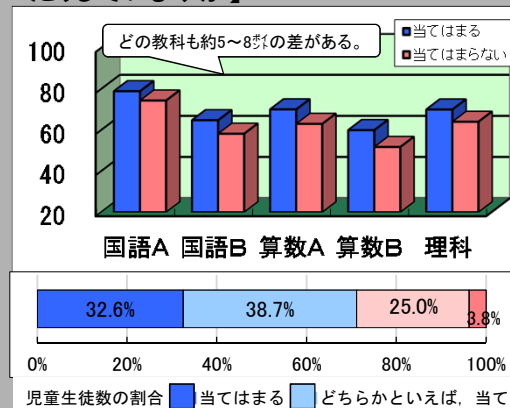
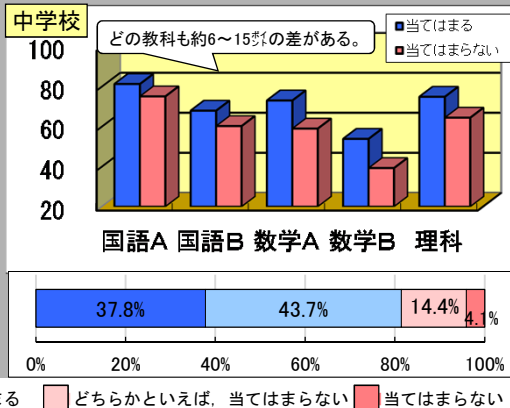
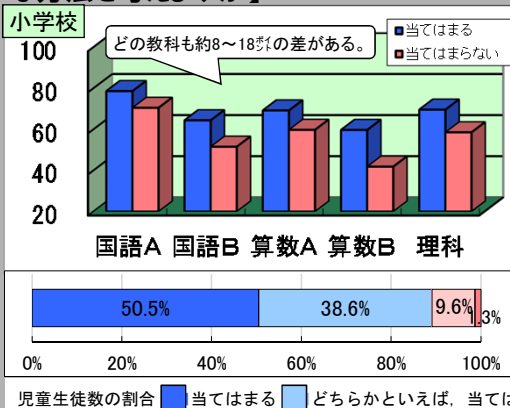
〈算数・数学〉

〈理科〉

【資料15】

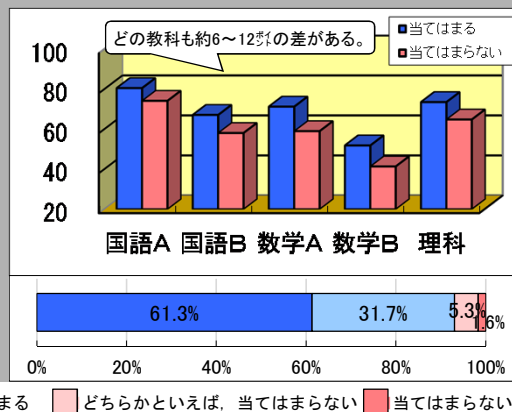
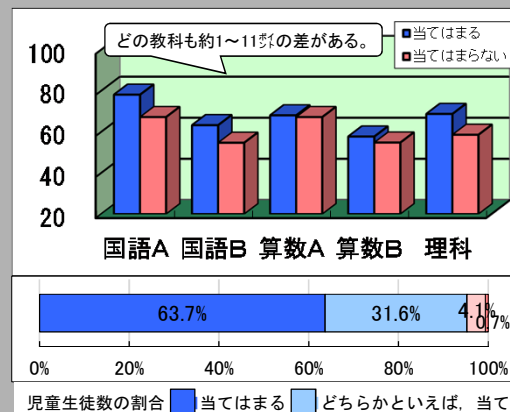
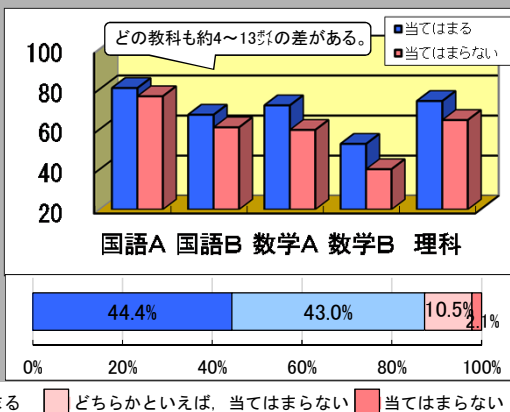
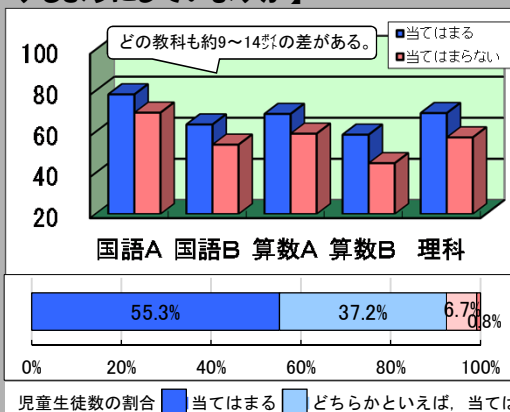
【算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか】 〈質問番号(31)〉

【理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか】 〈質問番号(45)〉



【算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか】 〈質問番号(35)〉

【理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか】 〈質問番号(49)〉



○算数・数学の問題で「分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」「公式やきまりを習うとき、わけ(根拠)を理解するようにしている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。問題解決への取組姿勢が、他の教科にも通じることがうかがえる。

○理科の授業で「考え(考察)をまわりの人に説明したり発表したりしている」「観察や実験の結果をもとに考察している」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。言語活動の充実や物事を考察する姿勢は、他の教科にも通じることがうかがえる。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

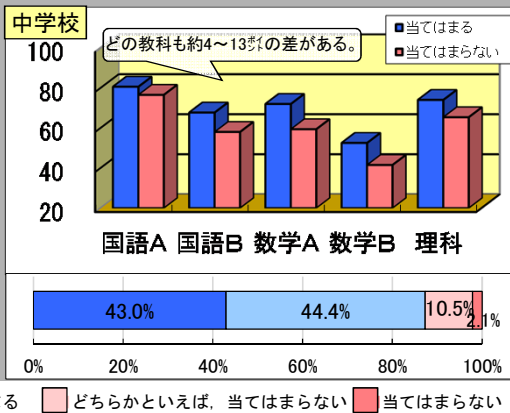
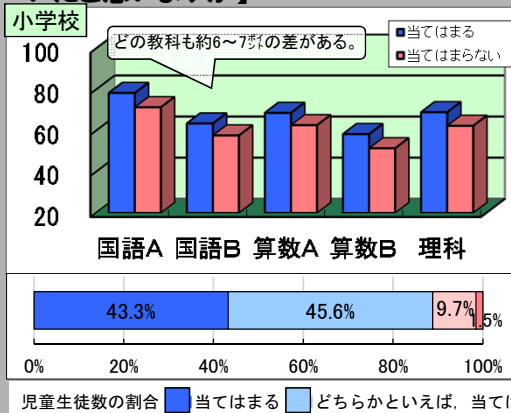
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と (あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

【主体的・対話的で深い学び】

【資料16】

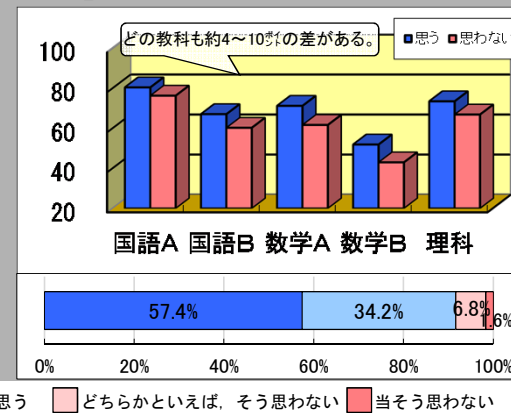
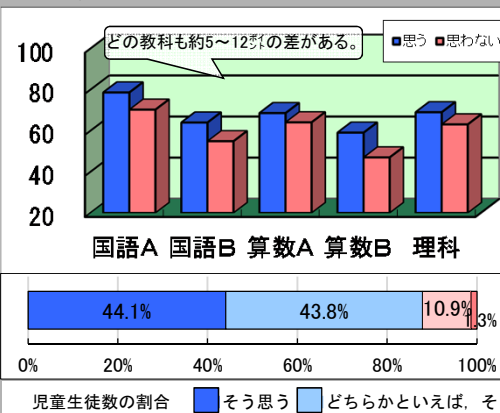
【課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか】

〈質問番号(小-55, 中-52)〉



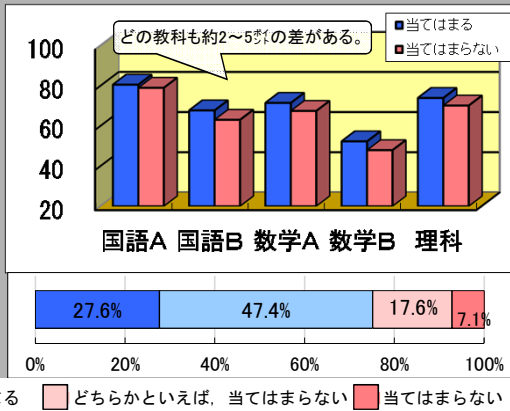
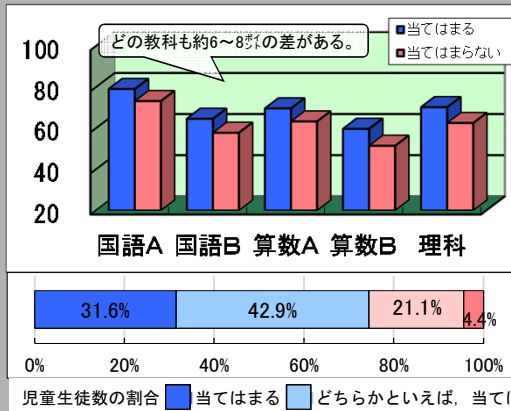
【友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】

〈質問番号(小-57, 中-54)〉



【自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していたと思いますか】

〈質問番号(小-56, 中-53)〉



【小学校：5年生までの授業 中学校：1, 2年生のときの授業について】

「主体的な学び」…課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組んだ
 「対話的な学び」…考えを発表する機会では、伝わるように工夫し発表した
 「深い学び」…話し合い活動を通じ、自分の考えを深めたり広げたりできた

- 昨年度までの授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実感する経験があると肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。
- 秋田の探究型授業を意識した先生方の不断の授業改善によるところが大きく、これまでの取組が成果として表れていると思われる。
- ※今後は、強く「当てはまる」「そう思う」と回答する児童生徒が、更に増えるような授業づくりを目指していきたい。

VI 学校質問紙調査の結果

1 概要

- 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫改善等に関して，小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く，概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 家庭や地域に開かれ小・中学校の接続を意識した教育課程の編成，児童生徒の学び方，生き方等に関わる指導，教職員研修等に関しても，小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く，各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

2 結果

(1) 学習指導－1

※H29年度の状況について回答するもの

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

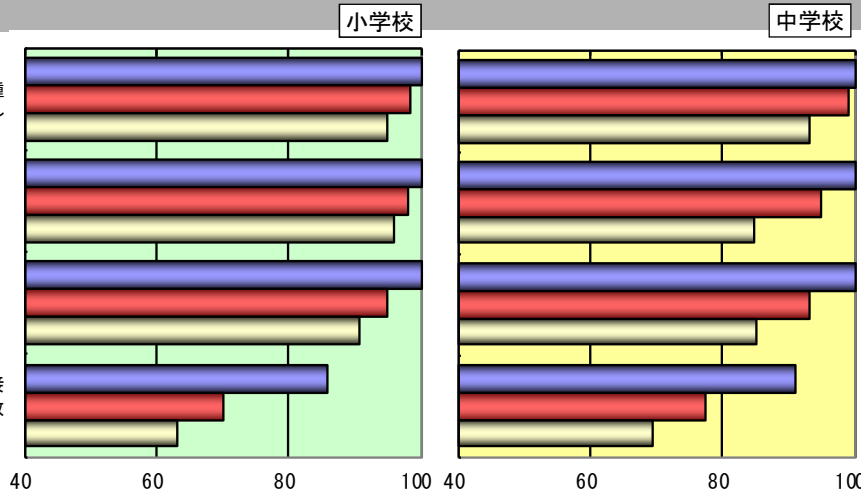
教育課程の編成

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

指導計画の作成に当たっては，教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

教育課程の趣旨について，家庭や地域との共有を図る取組を行っている

近隣等の小・中学校と，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行った



【資料18】

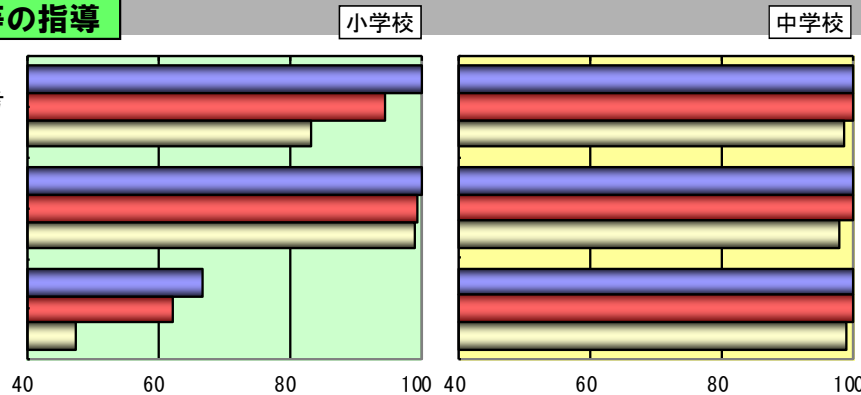
○教育課程については，PDCAサイクルの確立，家庭や地域との情報の共有，小・中学校の接続を意識した編成など良好な状況にある。

自己有用感の醸成，生き方等の指導

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

学校生活の中で，児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った

職場見学や職場体験活動を行っている



○児童生徒に夢や目標をもたせ，よい点や可能性を見付けて褒めるなど，自己有用感の醸成に努めていることがうかがえる。

VI 学校質問紙調査の結果

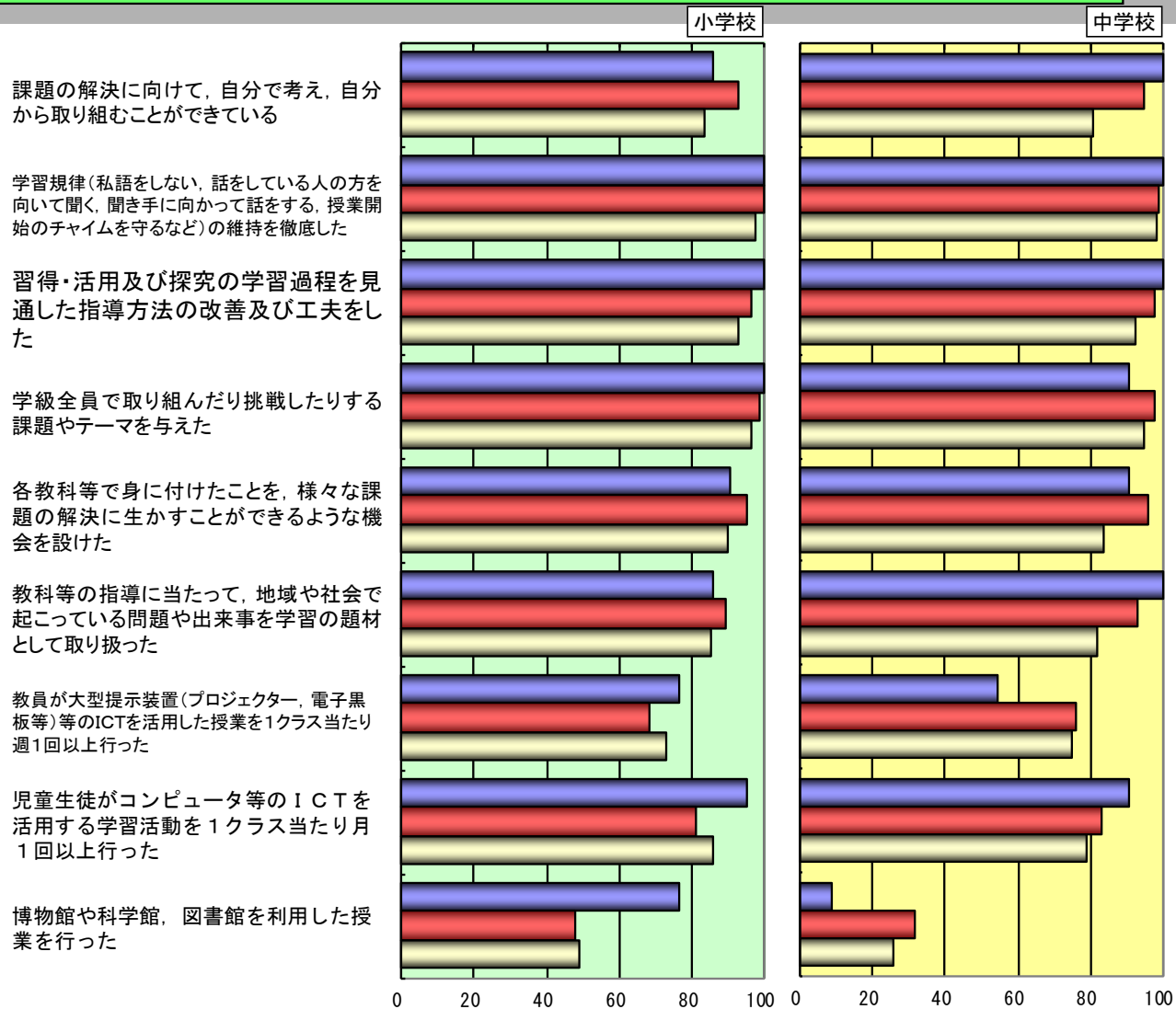
(1) 学習指導－2

※H29年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

学習指導（学習規律の定着、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、ICTの活用等）

【資料19】



- 学習指導については、学習規律の定着、習得・活用・探究の学習過程、児童生徒がコンピュータ等ICTの活用する授業等で大きな成果が見られる。
- 地域や社会の出来事等を題材とした授業が、特に中学校では100%行われている。
- 教員によるICTの活用については、中学校で国や県の平均を下回り、今後の工夫改善が望まれる。
- 「各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かす機会の設定」については、小・中学校共に今後更に力を入れていきたい。
- 「博物館、科学館、図書館を利用した授業」については、小学校と中学校での活用に大きな差があり、地域施設やセカンドスクールの活用について工夫が望まれる。



VI 学校質問紙調査の結果

(3) 交流と連携

※H29年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

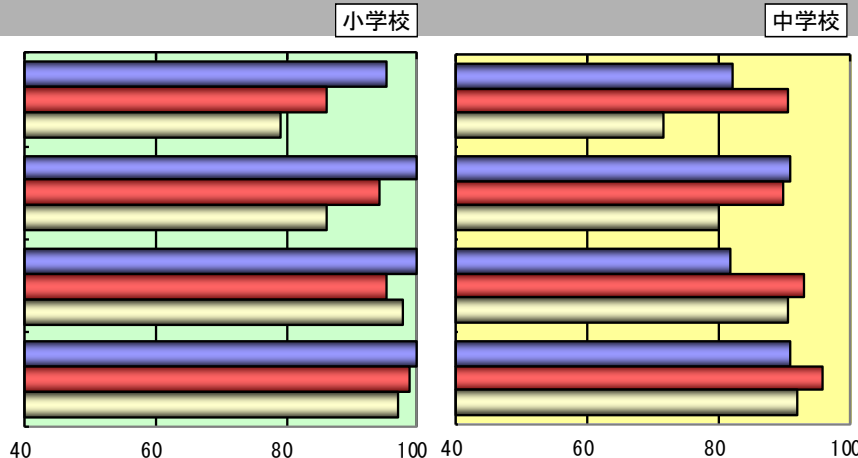
家庭や地域との連携

児童生徒に、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行った

授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行った

保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している

保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った



【資料20】

- 地域や保護者との連携については、概ね良好な状況と捉えられる。
- 学校美化・見守り・行事等への保護者や地域の人への参加に関しては、小学校では100%であるが、中学校では県平均を下回っている。

(4) 学校の研修体制

教職員の研修等

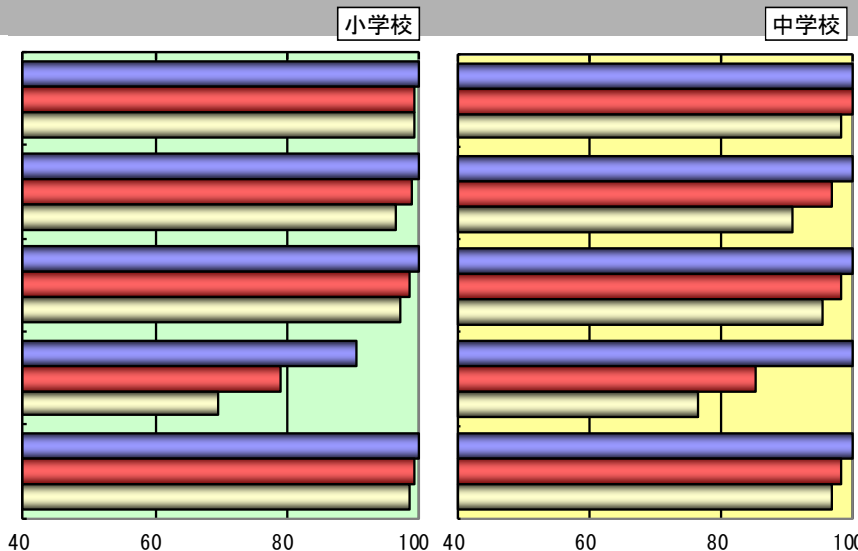
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている

模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている

教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる



【資料21】

- 授業研究に対して小・中学校が合同で研修を行うなど連携が図られており、国や県の平均よりも非常に高い状況にある。(ただし、小学校と中学校では達成度に対する意識に多少差が見られる。)
- 学校運営については、全ての学校で、教員間で課題を共有し、組織的に取り組んでいることがうかがえる。

